Osaka University Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | Essays on Behavioral and Experimental Economics : Perception and Decision Process |
| Author(s) | 黒川, 博文 |
| Citation | 大阪大学, 2017, 博士論文 |
| Version Type | |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/61464 |
| rights | |
| Note | やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、<a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">大阪大学の博士論文について</a>をご参照ください。 |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

様式３

# 論　文　内　容　の　要　旨

| 氏　名　（黒川　博文） | |
|---|---|
| 論文題名 | Essays on Behavioral and Experimental Economics: Perception and Decision Process<br>（行動経済学・実験経済学に関する小論：認知と意思決定過程） |

論文内容の要旨

本論文は人々の認知や感情が意思決定に与える影響や、意思決定がなされる過程について行動経済学的な分析を行ったものである。伝統的経済学では、認知や感情は意思決定に影響を与えないと考え、また、意思決定過程は観察不可能なブラックボックスとして扱ってきた。ところが、行動経済学の研究において、認知や感情が意思決定に体系的なバイアスをもたらすことが明らかにされている。また、脳活動を記録するfMRIや視線を追う装置であるアイトラッカーといったような技術が開発されることにより、意思決定過程は観察可能なものとなった。本論文では経済実験を用いて、認知や感情が意思決定にどのような影響を与えるかを明らかにする。また、アイトラッカーを用いてどのような過程で意思決定を行っているかを明らかにする。

第1章では、消費税と所得税の好みに対する選択実験を行い、消費税と所得税の等価性を検証した。被験者は見た目の税率が消費税の方が高いときは所得税を好み、見た目の税率が同じときは消費税を好んだ。消費税の方が税負担は低いにもかかわらず、所得税を好んだという結果は、消費税誤計算バイアス（外税表記の消費税を所得税と同様に内税かのように考えて消費税額を計算してしまうバイアス）の存在を示唆する。等価な消費税と所得税では所得税の方が好まれることから、消費税誤計算バイアスによって、等価性が成り立たないことが明らかとなった。

第2章では、アイトラッカーを用いて、時間割引課題の意思決定過程を明らかにした。暦日表記の場合は期日同士の比較や金額同士の比較（要素ごとの比較）を主にし、日数表記の場合は選択肢ごとの比較も要素ごとの比較と同程度行っていることがわかった。また、日数表記の場合、最終的に選択する選択肢を注視している割合が常に50%を超えているが、暦日表記の場合は50%前後で推移していることから、日数表記の場合は直感的に回答し、暦日表記の場合は悩みながら回答していることがわかった。他の条件が同じであっても期日の表記が日数と暦日の場合で、計測される時間割引に違いが生じることが知られているが、その発生原因の1つの説明として、意思決定過程の違いが挙げられることを明らかにした。

第3章では、幸福度が時間選好に与える因果効果を検証した。先行研究と同様に感情に影響を与えないような対照群と幸福度やポジティブな感情に影響を与えるような処置群をランダムに割り当て、介入を行った後に時間選好を計測する実験を行った。先行研究では幸福度やポジティブな感情を高めた処置群の方が時間割引率は低かったが、本研究は2つの意味で異なる結果を得た。第1に、対照群と比べて、幸福度やポジティブな感情が高くなった処置群の方が時間割引率は高かった。第2に、介入による感情の変化と時間選好に相関が必ずしもあるとは限らないことが明らかとなった。

様式 7

# 論文審査の結果の要旨及び担当者

| 氏　名　（ 黒川　博文 ） | | | |
|---|---|---|---|
| 論文審査担当者 | | （職） | 氏　名 |
| | 主 査 | 教授 | 大竹文雄 |
| | 副 査 | 教授 | 佐々木勝 |
| | 副 査 | 講師 | 犬飼佳吾 |

## 論文審査の結果の要旨

〔論文内容の要旨〕

本論文は人々の認知や感情が意思決定に与える影響や、意思決定がなされる過程について行動経済学的な分析を行ったものである。伝統的経済学では、認知や感情は意思決定に影響を与えないと考え、また、意思決定過程は観察不可能なブラックボックスとして扱ってきた。ところが、行動経済学の研究において、認知や感情が意思決定に体系的なバイアスをもたらすことが明らかにされてきた。また、脳活動を記録するfMRIや視線を追う装置であるアイトラッカーといったような技術が開発されることにより、意思決定過程は観察可能なものとなった。本論文では、経済実験を用いて認知や感情が意思決定にどのような影響を与えるか、アイトラッカーを用いてどのような過程で意思決定が行なわれているかが明らかにされている。

第1章では、消費税と所得税の好みに対する選択実験によって、消費税と所得税の等価性が検証されている。被験者は、消費税率は税を含まない消費額をベース、所得税は税込み所得をベースに見たそれぞれ定義されているため、消費税と所得税が等価となる税率は、消費税の方が所得税よりも高い。しかし、実験結果は、消費税率と所得税率の大小のみで税を選択している被験者が多いことを示している。この結果は、消費税誤計算バイアス（外税表記の消費税を所得税と同様に内税かのように考えて消費税額を計算してしまうバイアス）の存在を示唆する。等価な消費税と所得税では所得税の方が好まれることから、消費税誤計算バイアスが等価性を成り立たせない理由だと考えられる。

第2章では、アイトラッカーを用いて、時間割引課題の意思決定過程を明らかにしている。暦日表記の場合は期日同士の比較や金額同士の比較（要素ごとの比較）を主にし、日数表記の場合は選択肢ごとの比較も要素ごとの比較と同程度行っていることが示されている。また、日数表記の場合、最終的に選択する選択肢を注視している割合が常に50％を超えているが、暦日表記の場合は50％前後で推移していることから、日数表記の場合は直感的に回答し、暦日表記の場合は悩みながら回答していると考えられる。他の条件が同じであっても期日の表記が日数と暦日の場合で、計測される時間割引に違いが生じることが知られているが、その発生原因の1つの説明として、意思決定過程の違いが挙げられることが明らかにされている。

第3章では、幸福度が時間選好に与える因果効果が検証されている。先行研究と同様に感情に影響を与えないような対照群と幸福度やポジティブな感情に影響を与えるような処置群をランダムに割り当て、介入を行った後に時間選好を計測する実験が行なわれた。先行研究では幸福度やポジティブな感情を高めた処置群の方が時間割引率は低かったが、本研究は2つの意味で異なる結果を得た。第1に、対照群と比べて、幸福度やポジティブな感情が高くなった処置群の方が時間割引率は高かった。第2に、介入による感情の変化と時間選好には必ずしも相関があるとは限らないことが明らかにされた。

〔審査結果の要旨〕

本論文は、消費税と所得税の公共選択の背後にある意思決定バイアス、幸福度と時間選好の関係、および時間割引課題の意思決定過程を経済実験とアイトラッカーを用いて明らかにしたものであり、本論文には極めて高い学術貢献が含まれている。したがって、本論文は博士（経済学）に値するものと判断される。